

株主通信

第91期期末報告書

2023年4月1日～2024年3月31日



この報告書は、環境に配慮し、
植物油インキを使用しております。



株式会社加地テック

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第91期（2023年度）の株主通信をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当事業年度の業績について

当事業年度における外部環境としては、新型コロナに関するすべての行動規制が解除され経済活動が完全にアフターコロナへと移行したことによって、世界的な景気の回復が見られました。それに伴い当社の事業環境も好転してきております。

一方、ウクライナ情勢、イスラエル紛争、あるいは米中対立など、世界は再び分断されつつあり、サプライチェーンの混乱や資機材の高騰・長納期化の問題は依然残ったままとなっています。また長年に亘ったマイナス金利政策が解除されましたが、米国との金利差が解消されないことから円安は昨年よりも進んでおり、今後のエネルギーコストや資機材価格への影響が懸念されます。

当社に関連した事業環境面では、気候変動に対する有効な手段として急速に進んできたEV（電気自動車）シフトがここに来て低迷してきており、逆にハイブリッド車が急増するなど、市場動向に変化が見られ、各国の政策にも影響を与えつつあります。しかしながら中長期的にはEV化の流れは変わらないものと思われ、そのため国内の乗用車向け水素ステーションの需要も踊り場を迎えてきており、ここ数年は急激な増加は見込めない状況です。一方バス、トラックなど大型商用車用水素ステーション需要は確実に活発になってきており、当事業年度の水素ステーション受注案件のうち、約半数はこれらの大型商用車用水素ステーション向けとなっていることから、乗用車はEVをメインとして、大型車両はFCV（燃料電池車）へと今後は棲み分けが生じてくるものと考えられます。またグリーンアンモニア生成、CCUS（二酸化炭素回収・有効活用・貯留）、水素エンジン、水素サプライチェーン向けなど、カーボンニュートラル社会を目指した様々な試みや開発が多方面でなされており、これらの引合いが当社にも数多く到来している状況です。

このような事業環境の中、当事業年度における当社業績は、売上高7,261百万円、営業利益767百万円と計画を大きく上回る結果となり、前年同期比でも増収増益となりました。これは豊富な期初受注残から本体売上が増加したことに加え、アフターサービスが好調で計画値を上回る受注・売上が達成出来たこと、原価低減や総合組立工場における生産性向上の取り組みの成果が得られたことなどによります。

「2023中期経営計画」の実現に向けて

「2023中期経営計画」は、「KAJI 2030VISION」の実現に向

けた第一ステップとして2023年度から2025年度までの中期経営計画として策定しております。既存市場における圧縮機事業の収益力を向上させ、また超高压技術という当社の強みを生かした製品やサービスを市場投入することにより、持続可能な社会の実現に向けて社会貢献する事を目指しています。

2023年度は「2023中期経営計画」の初年度として、水素ステーション向け圧縮機の長寿命化開発や大型化開発、あるいは省エネ提案や各種診断サービスの提供などの新たなビジネスモデルの提供を目指した活動など、以下の基本方針に基づくアクションプランを着実に実施してまいりました。

- 基本方針① カーボンニュートラル社会の実現に向けた製品開発・商品化を推進する。
- 基本方針② 既存事業のQCD強化により製品競争力を高め事業を拡大する。
- 基本方針③ ソリューション型ビジネスを志向したアフターサービスの拡大により収益性を向上する。
- 基本方針④ 超高压圧縮技術で海外市場においても存在感を示す企業となる。

日本の製造業を取り巻く環境は今後も不透明感を増していくと思われませんが、当社は「2023中期経営計画」に掲げた各施策を着実に実施していくことで中長期的な成長を実現し、来るべきカーボンニュートラル社会の実現とさらなる企業価値の向上に向け真摯に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、当社の目指す方向性に対するより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2024年6月

代表取締役社長
松岡 克憲

事業の概況

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症収束に伴い経済活動の正常化が進んだことで景気の持ち直しが見られたものの、ウクライナ・中東情勢を契機とした原材料及びエネルギー価格の上昇や急激な円安の進行、一部自動車メーカーにおける生産・出荷停止の影響など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

日銀短観（2024年3月調査）によれば、2023年度の設備投資計画（全規模・全産業）は前年比10.7%増と前回12月調査からやや下方修正されたものの、依然として高い伸び率を維持しており、引き続き堅調な投資計画で推移しております。

このような状況下、当事業年度における当社業績は、大口のプラント向け圧縮機の販売が好調だったこと等により売上高は前年同期比21.5%増の7,261百万円となりました。売上高の増加に加え、原価低減への取り組みが功を奏し売上総利益は前年同期比45.5%増の1,961百万円となりました。一方で、人員増強等による人件費の増加により、販売費及び一般管理費は前年同期比7.5%増の1,194百万円となりました。以上の結果、営業利益は前年同期比223.4%増の767百万円、経常利益は前年同期比175.5%増の818百万円、当期純利益は前年同期比100.5%増の578百万円となりました。

【今後の見通し】

前述のとおり、ウクライナ・中東情勢を契機とした地政学的リスク、円安や物価上昇の影響など依然として景気の先行きは不透明な状況にあります。

このような状況下、当社は厳しさを増す現在の経済環境に柔軟に対応し、中長期的・持続的成長を実現し、来たるべきカーボンニュートラル社会に貢献すべく「2023中期経営計画」を推進中であり、その計画達成に必要な研究開発投資をさらに強化する方針です。一方、水素ステーションの新規建設数が鈍化するなどの外部要因の影響もあり、次年度においては、さらなる販売増加は難しい状況にあります。

以上から、2025年3月期の業績予想につきましては、売上高6,800百万円（前年同期比6.3%減）、営業利益470百万円（前年同期比38.7%減）、経常利益590百万円（前年同期比27.9%減）、当期純利益400百万円（前年同期比30.8%減）を見込んでおります。

トピックス

【水素ステーション等水素充填用及び水素サプライチェーン用圧縮機】

既に市場投入・販売展開している『水素ステーション用一括昇圧型水素圧縮機』は、定置式水素ステーションの標準仕様に対してラインナップを揃え、数多くの優れた技術を取り入れた製品で、「令和5年度燃料電池自動車用水素供給設備設置補助事業」で交付決定された中規模、及び大規模ステーション12箇所（14台）のうち8箇所（10台）受注しました。

また、水素サプライチェーン用圧縮機として、6月に日揮ホールディングス株式会社（以下、日揮HD）が福島県浪江町に設置する、再生可能エネルギー由来のグリーンアンモニア製造技術の実証プラント用の水素圧縮機並びに窒素圧縮機を日揮HDより受注しました。本受注をはじめとして複数件のカーボンニュートラル社会に向けた高圧圧縮機の受注を重ねています。

今後、カーボンニュートラル社会に向けて当社への期待は、超高圧圧縮機の従来からの課題である機器のコンパクト化、コストダウン、消耗部品の長寿命化などに加え、アンモニア合成設備の社会実装に必要な圧縮機の大容量化も加わってきます。これらのニーズに応えられる製品を引き続き開発していきます。

【大容量高圧水素圧縮機本体の検証完了及び20MPa級水素圧縮機新シリーズについて】

当社は、2021年度より親会社である株式会社三井E&S（以下「MES」）と共同で大容量高圧水素圧縮機の開発を進めていました。2024年3月MES玉野工場敷地内に設置した実証装置にて性能試験、耐久試験を完遂し、新圧縮機本体（型式：VD4-250GH-OL）の機能検証を完了しました。

本機は、バス充填などに対応する大型水素ステーションへの採用実績のある当社型式：VD4-100GH-OL（吐出圧力：45MPaG、吐出量：340Nm³/h）をベースに大容量化しており、目標とした信頼性及び耐久性を達成しています。引き続き、市場ニーズにマッチした圧縮機の周辺機器設計を進め、市場投入を行うべく準備を進めています。実証装置の概略仕様は以下となります。

実証装置（圧縮機本体）仕様

取扱ガス	水素
型式	VD4-250GH-OL
吸込圧力	0.6MPaG
吐出圧力	45MPaG
吐出流量	600Nm ³ /h

また本機の市場投入準備と合わせて、20MPaG級水素圧縮機の新シリーズの準備を進めています。VD4-250GH-OLは吐出圧力20MPa用途においては、吐出流量1000Nm³/h級に対応するよう開発されています。これに加え当社従来型式VD4-55、VD4-150のリモデルを実施し、水素ステーション向け圧縮機で採用している優れた技術を取り入れた新シリーズとして吐出流量100~1000Nm³/hのラインナップ拡張（従来は最大600Nm³/h）・整備を進めており、より細かい市場ニーズに対応すべく開発推進しています。

当社は、経済産業省が脱炭素社会の実現に向けたイノベーションに果敢に挑戦するゼロエミ・チャレンジ企業の一員であり、また2020年12月7日に発足した水素社会の実現を推進する団体「水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）」の会員として、水素社会インフラ技術を担う圧縮装置の製造・販売・開発に積極的に取り組んでいきます。

貸借対照表 (2024年3月31日現在)

損益計算書 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位：千円)

資 産 の 部				金 額	
流	現受電	動金	預手債	1,524,336	
	子取	及び	掛	33,093	
	契約	掛	掛	1,325,254	
	製約	約	約	1,508,052	
	仕材	貯	蔵	283,309	
	原材	貯	蔵	1,700,642	
	預の	の	の	357,859	
	貸流	倒	引	1,100,000	
	流	倒	引	93,236	
	流	倒	引	△25,300	
固	有形	固定	資産	7,900,485	
	無投	固定	資産	3,347,816	
	資	固定	資産	158,420	
	固	固定	資産	403,188	
	資	固定	資産	3,909,425	
	固	固定	資産	11,809,910	
負 債 の 部				金 額	
流	支電	払子	録債	119,109	
	買子	期掛	借入金	924,099	
	短期	借掛	借入金	262,547	
	1年	内返	借入金	10,000	
	リ	一	ス	78,924	
	未	払	費	2,620	
	契	法	人	274,335	
	賞	約	税	239,891	
	受	与	引	265,904	
	そ	注	損	220,080	
	流	の	他	84,600	
	流	の	他	121,335	
	流	の	他	2,603,448	
固	長	期	借	1,355,306	
	り	借	入	6,550	
	退	職	給	531,285	
	を	の	他	7,000	
	固	定	負	1,900,141	
	負	債	合	4,503,590	
純 資 産 の 部				金 額	
株	資	本	金	1,440,000	
	資	本	金	1,203,008	
	利	益	剰	4,775,089	
	自	己	株	△111,777	
	株	主	資	7,306,320	
	評	価	換	算	△
	純	資	産	7,306,320	
	負	債	合	11,809,910	

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上 高	7,261,065
売 上 原 価	5,299,232
売 上 総 利 益	1,961,832
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,194,716
営 業 利 益	767,116
営 業 外 収 益	56,939
営 業 外 費 用	5,730
経 常 利 益	818,325
特 別 利 益	2,600
特 別 損 失	-
税 引 前 当 期 純 利 益	820,925
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	273,458
法 人 税 等 調 整 額	△30,889
当 期 純 利 益	578,356

(注) 1株当たり当期純利益(期中平均発行株式数による) 349円55銭

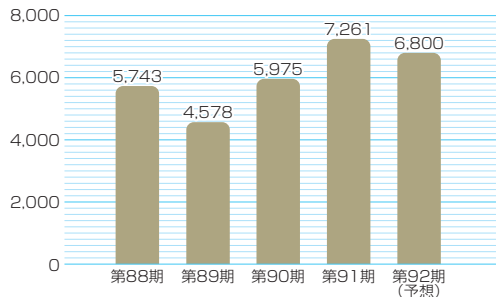
キャッシュ・フロー計算書(要旨) (2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位：千円)

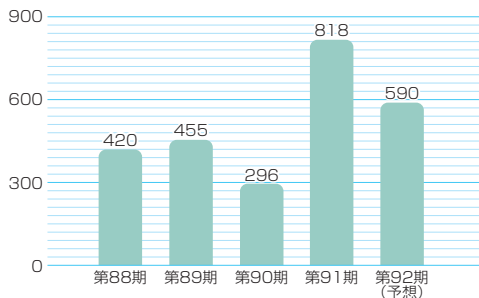
営業活動によるキャッシュ・フロー	842,834
投資活動によるキャッシュ・フロー	△155,183
財務活動によるキャッシュ・フロー	△134,828
現金及び現金同等物の期末残高	1,524,336

業績ハイライト

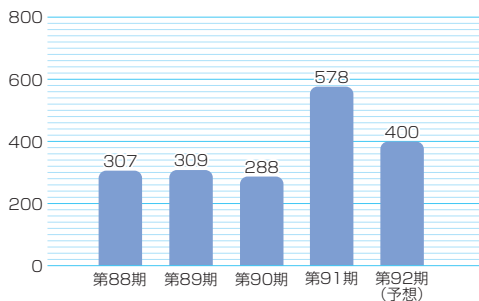
■ 売上高 (単位：百万円)



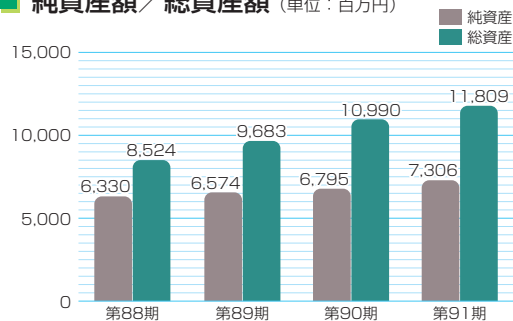
■ 経常利益 (単位：百万円)



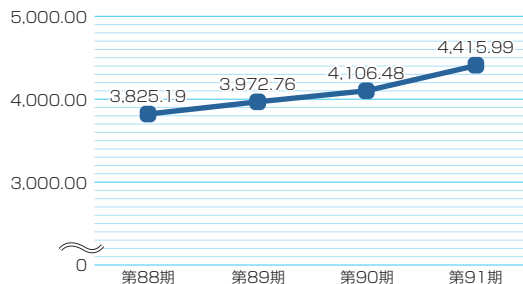
■ 当期純利益 (単位：百万円)



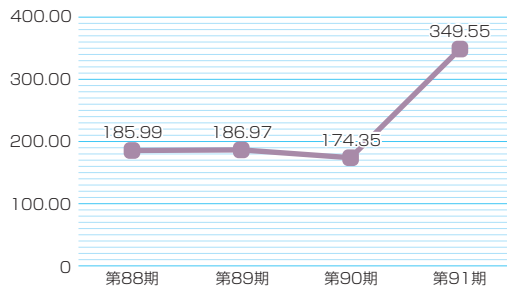
■ 純資産額／総資産額 (単位：百万円)



■ 1株当たり純資産額 (単位：円)



■ 1株当たり当期純利益 (単位：円)



会社の概要

社名	株式会社加地テック KAJI TECHNOLOGY CORPORATION
創立	明治38年5月(1905年)
会社設立	昭和9年2月(1934年)
資本金	14億4,000万円(東京証券取引所スタンダード市場上場)
製造品目	空気及びガス圧縮機 水冷・空冷式圧縮機 給油・オイルフリー・オイルレスタイプ圧縮機 石油化学・産業ガス用 電力・試験・一般産業用 PETボトル成形用 天然ガス自動車燃料充填用 燃料電池自動車燃料充填用 各種ガス回収精製装置
所在地	本社・工場 〒587-0064 大阪府堺市美原区菩提6番地 TEL：072-361-0881(代表) FAX：072-362-4491(人事総務部) 東京支社 〒134-0086 東京都江戸川区臨海町3丁目6番4号 ヒューリック葛西臨海ビル4階 TEL：03-5679-6910(代表) FAX：03-5679-6950

株主の状況

【大株主の状況】

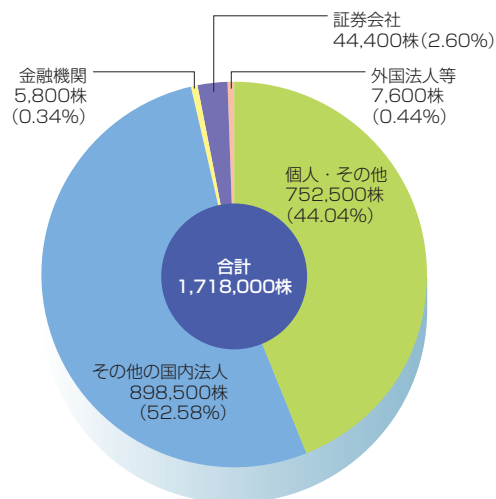
株主名	持株数	持株比率
株式会社三井E&S	844,546株	51.04%
加地取引先持株会	36,900	2.23
松原啓二	14,600	0.88
桜井昭一	14,300	0.86
東京短資株式会社	13,000	0.79
木田裕介	11,300	0.68
曾山邦子	10,600	0.64
野村證券株式会社	9,348	0.56
株式会社フジヨシ	8,500	0.51
大岩亨江	7,879	0.48

(注1) 当社は、自己株式63,486株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。

(注2) 持株比率は自己株式63,486株を控除して計算しております。

(注3) 持株比率は、小数点以下第2位未満を四捨五入して表示しております。

【所有者別株式の分布状況】



(注) 上記株式数には、単元未満株式9,200株は含まれておりません。

(取締役及び監査役)

代表取締役社長	松岡克憲
取締役	小山幸広
取締役	塩口修治
取締役	福田慶実
社外取締役	前田洋輔
社外取締役	中塚秀聡
常勤監査役	立花勝
社外監査役	飯塚芳正
社外監査役	多田敏夫

- (注) 1. 前田洋輔氏、中塚秀聡氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 2. 飯塚芳正氏、多田敏夫氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

(執行役員)

最高経営責任者 (CEO)	松岡克憲	
執行役員	小山幸広	監査部担当
執行役員	塩口修治	経営企画室・財務経理部担当
執行役員	片山秀樹	設計部担当
執行役員	田邊雄三	アフターサービス部担当 兼アフターサービス部長
執行役員	牧義男	品質保証部担当 兼品質保証部長
執行役員	浦田洋	営業部担当兼営業部長
執行役員	片山秀昭	生産部、生産管理部担当
執行役員	中塚利幸	人事総務部担当 兼人事総務部長

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
上場金融商品取引所	東京証券取引所スタンダード市場
株主名簿管理人兼特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付及び電話お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
特別口座管理機関取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告(当社ホームページに掲載) [アドレス]https://www.kajitech.com ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。